



Ken Okuyama CARS Kode 0 ペブルビーチ・コンクールデレガンスの特別カテゴリーに出展

北米ペブルビーチ・ゴルフコースにて開催される世界最高峰の自動車コンクールデレガンス "第 73 回ペブルビーチ・コンクールデレガンス" には世界 16 国から 214 台のクラシックカー達が集結し、多くの見学者を集めました。

今回ノミネートされた kode0 は 1968 年のトヨタ 2000GT について日本車としては二台目のペブルビーチ・コンクールデレガンス (審査対象クラスとして) 参加車両となります。ペブルビーチにおいては "コンセプトトローン" が未来のクラシックになり得る最新のコンセプトカーを展示する舞台として存在します。そんな中で本会場たるコンクールデレガンスエリアに時代を超えたクラシックとし Kode 0 がノミネートされたのは画期的な事です。



今回の大きな特色としては、「ウェッジシェイプ・コンセプトカー&プロトタイプクラス」という特別クラスが設けられたことです。このクラスは 1960 年代終わりから世界の自動車スタイリングのトレンドとなったウェッジシェイプ (くさび型造形) の進化に焦点を当てるもので、前期・後期の 2 カテゴリーが設けられ、合計 21 台がノミネートされました。フェラーリ・モデューロ、ランチア・ストラトスゼロというウェッジシェイプのトレンドを作った代表的モデルと共に日本随一のカロツエリア (コーチビルダー) である Ken Okuyama CARS から 2017 年にワールドプレミアを飾った Kode 0 がこのトレンドを引き継ぐ "最も新しい一台" としてノミネートされました。

Kode 0 のユニークなスタイリングのコンセプトは、1969~1970 年に登場したランチア・ストラトスゼロ、ランボルギーニ・カウンタック、フェラーリ・モデューロといった皆が夢見たドリームカーを現代のテクノロジーで蘇らせることにあります。



「50年代後半から70年代前半まで。さらに細かく言えば、カロッツェリア発コンセプトカーの全盛期である1963年から1973年のオイルショックまでの10年間は、自動車デザインの未来を築いた重要な時期です。ウェッジシェイプは空力の最適化や新素材開発から誕生し、現代に続く画期的なデザインであると、そのモチーフを現代の技術で表現したのがKode0なのです。」

(奥山清行 Ken Okuyama CARS)



Kode0 はカーボンファイバー・モノコックをベースにハイパワーV12NA エンジンをミッドマウントした基本ストラクチャを持ちます。カーボンファイバー製コンポーネントを多用した 1,550kg の軽量ボディと700ps を発揮するハイパフォーマンスエンジンとのコンビネーションは世界トップレベルの動力性能を発揮します。

低いノーズから A ピラー、そして C ピラーを経てリアエンドに至る一本の線でつながったワンモーションのクリーンなシルエットが Kode 0 のスタイリングテーマです。極めてシンプルなイメージのフロントエンドは、左右の A ピラーに繋がるカーボンフェンダーに高輝度 LED ヘッドライトを溶け込ませ、リトラクタブルヘッドライト全盛期を連想させるスーパースポーツのフロントエンドを形成しています。また、ブレーキクーリング・エアダクトが支えるノーズウィングにより、ノーズからアンダーボディへの整流を行い十分なダウンフォースを確保しています。リアエンドはショートオーバーハングのスタイルをさらに強調する、短く切り落とされたシャープなイメージを特徴とし、スリムな形状の LED リアライトがハイデッキスタイルをより強調します。

今回出展された kode 0 は、現在は北米オーナーの手元にあります。顧客からのオーダーによって限定台数の受注が可能となっています。



【Related sites】

Official Site: <https://www.kenokuyamadesign.com/>

Kode 0 Special Site: https://www.kenokuyamadesign.com/oneoff/press/kode0_2024/

[Down Load Link]



-CONTACT-
Ken Okuyama CARS
Mail address: cars@kenokuyama.com
TEL: +81 3 6447 5250
(Miho Hoshimoto /Advertising cooperation :EKKO PROJECT)



奥山 清行
工業デザイナー / KEN OKUYAMA DESIGN 代表
1959年 山形市生まれ。

ゼネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、ボルシェ社(独)、シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊)デザインディレクター、アートセンターカレッジオブデザイン(米)工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ・エンツォ、マセラティ・クアトロロボルテなどの自動車やドゥカティなどのオートバイ、鉄道、船舶、建築、ロボット、テーマパーク等数多くのデザインを手がける。2007年よりKEN OKUYAMA DESIGN 代表として、山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティング業務のほかKEN OKUYAMAブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。秋田新幹線、北陸新幹線、トランススイート四季島、ヤンマー全製品、眼鏡と活動範囲を広げている。金沢美術工芸大学名誉客員教授、アートセンターカレッジオブデザイン客員教授。

『フェラーリと鉄瓶』(PHP 出版社)、『伝統の逆襲』(祥伝社)、『人生を決めた15分 創造1/10000』(KEN OKUYAMA DESIGN)、ビジネスとしてのデザイン(祥伝社)など著作、最新書籍「奥山清行デザイン全史」が発刊(新潮社、田中誠司著)や、講演活動も行う。

会社プロフィール

会社名: 株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN
本社: 山形県山形市|東京オフィス: 東京都渋谷区神宮前
資本金: 1億円
社員数: 45名
事業内容: デザインコンサルティング(プロダクトデザイン、建築、ブランディング)、ワンオフカー製造

会社沿革

2006年10月	山形県山形市に本社設立
2007年4月	株式会社化
2007年5月	KEN OKUYAMA EYES発表
2008年1月	メゾンエオブジェ(仏)で山形工房新作発表
2008年2月	第三者割当増資を実施
2008年3月	ジュネーブモーターショー(スイス)でk.o7、k.o8発表
2008年4月	ミラノサローネ(伊)で山形工房新作発表
2008年5月	米国子会社設立
2008年9月	東京オフィス開設、5月北青山に移転
2010年4月	山形ファクトリー開設
2010年5月	山形市七日町御殿塚「KEN OKUYAMA CASA」オープン
2012年11月	東京オフィス移転、青山スタジオ開設、ショールームオープン
2013年11月	東京モーターショーでkode9発表
2016年8月	モントレーCar Weekでkode57発表
2017年10月	モントレーCar Weekでkode0発表
2017年8月	東京オフィスを神宮前に移転
2023年5月	イタリア ヴィラデステ Car Week でKode61を発表
2024年4月	東京 神宮前 Ken Okuyama TOKYO オープン